

日時：2025年3月25日(火) 17:30-18:00

場所：WEB(Teams)開催

進行：ストーマ用品セーフティーネット連絡会 当番幹事 株式会社ホリスター

議事：ストーマ用品セーフティーネット連絡会 副当番幹事 コロプラス株式会社

参加予定者：JSSCR-幸田圭史、板橋道朗、靱山こずえ、山本由利子

JWOCM-紺家千津子、松原康美

JOA-木下静男

OAS-諏訪昌宏(進行)、秋葉晃子、Vivian Fei、内藤寿真子(議事) 合計 11名

1. 活動報告

1) JSSCRより

板橋：

- 昨年9月と12月、JSSCRと、日本で製品販売している各ストーマメーカーの代表参加による2回の意見交換会を実施した。板橋理事長と山本副理事長とで参加し、日本のオストメイトの方が生活しやすい世の中になるように提案したことを以下6項目にまとめた。
 - ① 製品開発について：中間業者を通してだけでなくメーカーへ医療従事者の意見をもっと伝えていく必要があること相互に理解し、今後、学会にWGのようなものを設立できないか協議中。
 - ② 給付券の問題を含めた社会環境整備：学会だけではなく、JOAやJWOCと協力しながら検討していく。
 - ③ 在宅への取り組み：在宅のストーマケアは今後増えてくることから、在宅のストーマケアの現状と課題について調査をしていく方向で検討。
 - ④ サンプルの過剰供給：学会の方の話ではあるのだが、講習会の時のサンプルの過剰供給は好ましくはないことを共有した。OASの活動を通じて災害の被災者にサンプル提供している話も出た
 - ⑤ 災害時の対応：色々な認知を進めていきたい
 - ⑥ 中間業者へのアプローチ：オストメイトへの対応について、販売店間に少しスキルに差があるのではないかという話があるが、実際には実態をつかめていないので、学習目標のアップデートや、販売店のスキルアップに学会としてどう貢献できるかの話が持ち上がった。

靱山：

- 災害対策地域代表者会議：2月7日、JSSCR学術総会期間中に開催、各メーカーの代表も含めて約60名の参加をみた。
 - ✓ 各地域代表から災害対策に関する進捗状況などの報告をもらい、地域に差はあるものの徐々に進んできていることを確認、厚労省との面談報告も行った。
 - ✓ 今回の会議で、今年度、各地域代表の方で手掛けることとして「各都道府県・自治体において災害時の協定があり、ストーマ用品の補助が出せる状況にあるかの調査」とした。厚労省側でも調査・研究の話はあるが、一足先に各地域にて行政や販売店と繋がるのが大切、またどこも繋がればよいかの確認の意味合いにも本調査がなるため実施。
 - ✓ 現在、災害対策について、オストメイト用にリーフレットを配布していたが、加えて、宮城県地域で作成の「オストメイト災害対策マニュアル」を参考に全国版の手帳を作成、配布にすることを計画、今年中に作成の方向で進行中、完成後、報告させていただく。
 - ✓ 会議の時、県や自治体と話す際に資料が欲しいという声があり、千葉県が進んでいることから、木下会長より当該エリアで実施されている事例の資料を提供いただき、代表者へ共有し、利用を促した。
 - ✓ 行政の災害対策対応窓口は、薬事課であったり、災害対策課であったり、地域により異なっているため、今回実施していく調査で明確にすることが期待できる。
- JSSCR学術総会での災害対策委員会企画の開催について
 - ✓ 藤田先生より能登半島地震での対応についてご報告いただいた。

- ✓ 中村先生に静岡県の現状として、災害対策委員会に入らせていただいていたからの積極的な活動状況（行政との関わりを進めて、現在ストーマ製品の預かり事業を7カ所で開始、医療機器販売業協会への確認で、薬事課との間で協定締結している事例など）を報告いただいた。
- ✓ 熊本の福永先生からは、「まもるモン」というオストメイトとの連絡ツール等を紹介いただいた。今般、企業版が公開されて広がることを期待するとともに、提供いただいた資料はホームページに掲載される予定。

2) JWOCMより

紺家：

- JSSCRにおかれては、災害時の装具などの物流や環境整備に細やかなご調整いただいている。当学会は皮膚排泄ケア認定看護師が多いので、災害時の人的支援策を検討、具体的には、災害支援ナースの取得を進め、厚生労働省のDMAT（災害派遣医療チーム）と同様、病院へ派遣をすることを考えている。日本看護協会が研修会を開き、各都道府県単位で一年かけて研修会をして、当該資格を取得、厚労省から病院のほうに依頼があれば派遣ができる形式。資格がないと要望があっても行けないため、取得を推進する動きに取り掛かり始めている。

3) JOAより

木下：

- 第37回JOA全国大会（北海道大会）：6月14～15日、札幌市教育文化会館で開催予定。JSSCRとJWOCMからご後援、OAS企業より展示協賛をいただいている。
- 災害救助法の適用：大雪に係るもの、岩手県の山林火災と、過去とは異なる災害での適用があった。それぞれの該当地域支部長とは連絡を取りながら情報を確認した
- 現在の支部数は全国で50支部、愛媛県、香川県と山梨県の三箇所は県支部が存在しない。JSSCR山本副理事長から香川県支部の立ち上げについてお話をいただき、徳島県支部と連携を取りながら、再立ち上げができるよう進めているところ。皆様のご協力をお願いする。
- 災害対策絡み：千葉県支部の活動について、JSSCRの災害対策地域代表者会議にて資料提供した。
- 日本身体障害者団体連合会を通して、厚労省や内閣府などの関係省庁へ、オストミー協会の要望事項を例年提出しており、令和7年度についても地域間格差の是正（3項目）に関する要望事項を提出済み。（前回の議事録にて要望内容の詳細は報告済み、そちら参照ください。）

4) OASより

諏訪：

- 災害救助法適用に関する報告：令和7年2月の適用地区：岩手県大船渡市の大規模災害について、販売店に確認したところ、無償提供要請が数例ありとのことで情報を集計中、次回ご報告させていただきます。
- 活動報告：12月8日JOA三多摩支部の社会適応訓練講習会で災害対策について講義実施
- 2025年度はコロプラストが当番幹事、アルケアが副当番幹事となる旨の連絡。

2. その他

山本：香川県支部の立ち上げについて、4月に隣の徳島県支部と打合わせをし、5月に当該支部事務局長より講演をいただき連携を取っていく、支部不在で地域格差への対応ができない状況の改善に寄与したい。

松原：ご挨拶、6月でJSSCR理事の任期終了で、本会への参加は今回が最後、交代者への引継ぎを行う。

3. 次回開催：第60回日本ストーマ連絡協議会

2025年7月29日（火）17時30分～18時30分予定

以上